

平成25年度登録販売者試験問題

実施日：平成25年8月25日（日）

試験時間：10:00～12:00

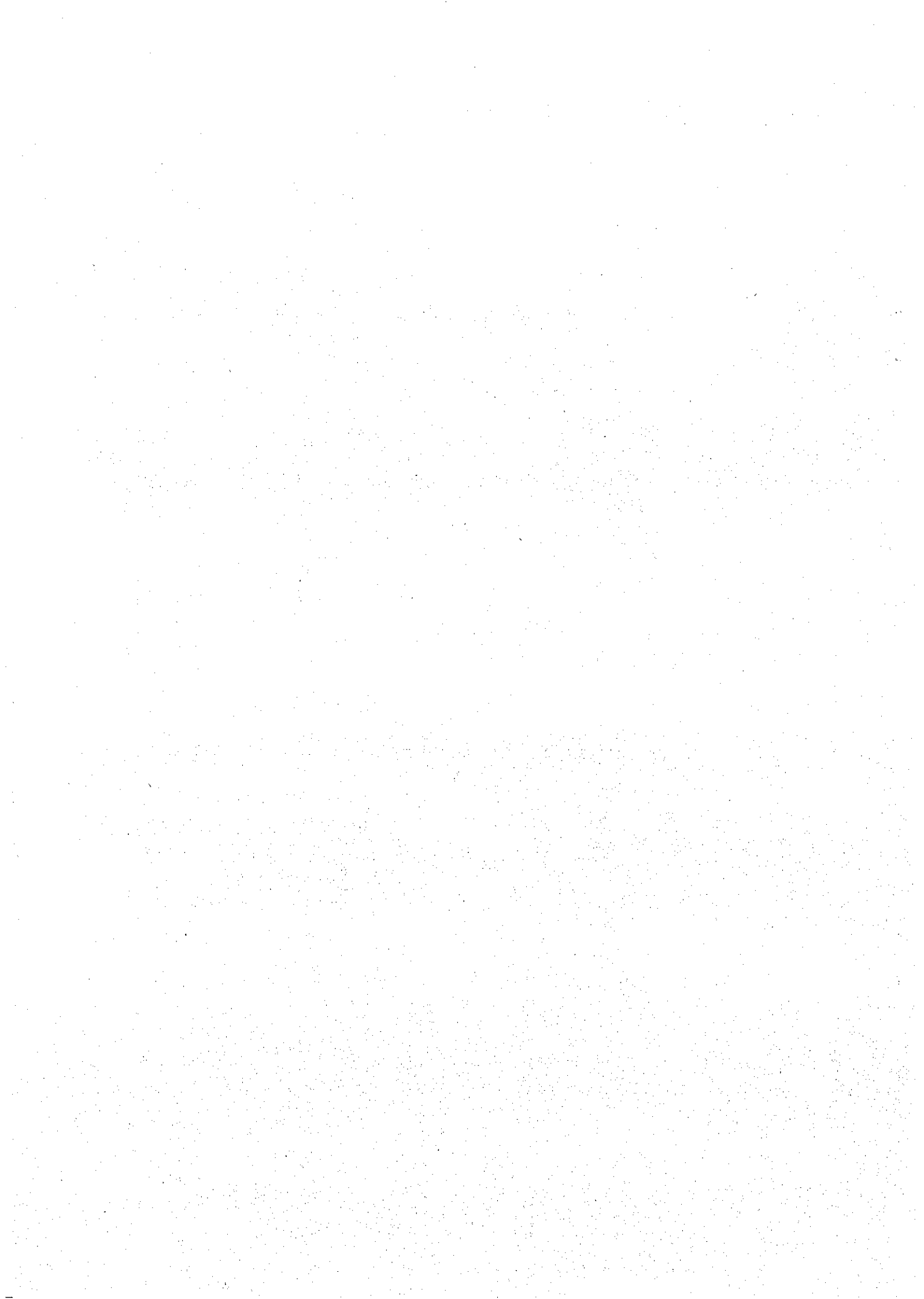
内容：医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）
主な医薬品とその作用（40問）

◎ 問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

【注意事項】

- 1 試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
- 2 携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
- 3 不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
- 4 受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
- 5 受験票、鉛筆、消しゴム、時計以外のものは机の上に置かないでください。
- 6 試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
- 7 試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。
- 8 試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」10ページ、「主な医薬品とその作用」20ページの合計30ページです。
試験開始後、落丁がないことを確認してください。
- 9 各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適切と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
- 10 答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
- 11 問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
- 12 この試験の医薬品の成分の表記は、厚生労働省作成の「試験問題の作成による手引き（平成19年8月（平成21年6月一部修正））に基づいています。

福 井 県



I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 医療用医薬品は、保健衛生上のリスクを伴うが、一般用医薬品は、保健衛生上のリスクを伴わない。
- b 医薬品の有効性は、市販前に確認されているので、市販後には、安全性の確認のみ行われる。
- c 医薬品は、健康被害がなくても、異物の混入、変質等があってはならない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は、そのすべてが解明されているわけではない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問2

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 主作用以外の反応は、全て副作用である。
- b アレルギーは、医薬品の有効成分により引き起こされ、添加物では引き起こされない。
- c 医薬品の副作用は、誰にでも起こる可能性がある。
- d アレルギー症状には、流涙、鼻汁、湿疹、血管性浮腫等がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問3

医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 一般用医薬品による副作用は重篤化することはないので、その兆候が現れたとしても、使用を継続したまま様子を見ればよい。
- b 登録販売者は、購入者から副作用について相談があったときに、個人情報であるため、副作用の発生の経過を聴いてはいけない。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではない。
- d 一般用医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても定期的に検診を受けるよう、登録販売者から促していくことも重要である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

一般用医薬品の使用による有害事象に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 症状が改善しないまま使用し続けると、有害事象を招く危険性が増すおそれがある。
- 2 小児への使用を避けるべき医薬品を、用量を減らして小児に服用させることは、有害事象につながる危険性が高い。
- 3 人体に直接使用されない医薬品は、使い方を誤っても有害事象につながることはない。
- 4 有害事象の発生を防止するには、医薬品の販売等に従事する専門家が、正しい情報を、購入者の理解力や医薬品を使用する状況等に合わせて適切に伝えることが重要である。

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問5

医薬品の使用に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品は、乱用された場合を想定して、使用する量が少なめに定められている。
- b 医薬品を、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- c 一般用医薬品には、習慣性がある成分を含んでいるものがあるが、依存性がある成分を含んでいるものはない。
- d 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でないため、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問6

医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 同様の作用を持つ成分が含まれる医薬品を併用すると、作用が強く出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがある。
- b 相互作用には、医薬品の吸収、分布、代謝、排泄の過程で起こるものと、薬理作用をもたらす部位で起こるものがある。
- c 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合は、なるべくその症状にあった成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 一般用医薬品のかぜ薬とアレルギー用薬では、その成分や作用が重複することはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問7

医薬品と食品との飲み合わせに関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ハーブなどの食品は、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- b ビタミンAは、ビタミンAを含む医薬品の服用量にさえ注意すれば過剰摂取になることはない。
- c カフェインを含む医薬品とコーヒーを一緒に服用しても、カフェインの過剰摂取になることはない。
- d 保健機能食品は、医薬品との相互作用を起こすことはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問8

医薬品と酒類（アルコール）との飲み合わせに関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

酒類（アルコール）は、主として（ a ）で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者ではその代謝機能が（ b ）いることが多い。

その結果、代謝によって産生する産物（代謝産物）に薬効がある医薬品の場合には、（ c ）ことがある。

	a	b	c
1	腎臓	高まって	作用が強く出過ぎる
2	腎臓	高まって	十分効果が得られない
3	肝臓	低下して	十分効果が得られない
4	肝臓	高まって	作用が強く出過ぎる
5	肝臓	低下して	作用が強く出過ぎる

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問9

小児および高齢者等の医薬品使用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- 2 5歳未満の幼児に使用される錠剤、カプセル剤では、服用時に喉^{のど}につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- 3 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは難しい。
- 4 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

問10

妊婦および妊娠していると思われる女性の医薬品使用に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 妊婦が医薬品を使用した場合、胎盤関門によって、医薬品成分の胎児への移行はすべて防御される。
- b 妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、一般用医薬品では、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- c 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- d ビタミン剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取しても胎児に影響はない。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問11

医薬品の使用上の注意等において用いられる年齢区分に関する記述について、()の中に入れるべき字句として正しいものはどれか。

医薬品の使用上の注意等において、「高齢者」という場合には、おおよその目安として、()以上をいう。

- 1 60歳
- 2 65歳
- 3 70歳
- 4 75歳
- 5 80歳

問12

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品が保管・陳列される場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。
- b 品質が承認された基準に適合しない医薬品、その全部または一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品の販売は禁止されている。
- c 医薬品は、適切に保管・陳列されていれば、経時変化による品質の劣化はない。
- d 適切に保管されていれば、いったん開封されても表示されている「使用期限」までの品質は必ず保証されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問13

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 生活の質（QOL）の改善・向上
- b 健康の維持・増進
- c 健康状態の自己検査
- d 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問14

セルフメディケーションに関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a セルフメディケーションとは、生活者が、医師等の専門家による適切なアドバイスの下、医療用医薬品を利用する考え方である。
- b 登録販売者は、購入者等に対して科学的根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- c 登録販売者は、セルフメディケーションを支援するため、常に医薬品の販売に結びつける情報提供をしなければならない。
- d 症状が重いときに、一般用医薬品を使用することは、適切な対処とはいえない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問15

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の選択や使用を判断する主体は、登録販売者である。
- b 医薬品を使用する購入者本人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握のために重要な手がかりとなる。
- c 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、登録販売者は、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- d 家庭における常備薬として購入されることも多いことから、購入者側の状況の把握に努めることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問16

登録販売者が購入者から確認しておきたい事項の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
- d その医薬品は、すぐに使用される状況にあるか。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問17

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド製剤は、催眠鎮静剤として販売されていたことがある。
- 2 妊娠している女性が摂取した場合、サリドマイドは胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- 3 サリドマイドの光学異性体のうち、R体のサリドマイドを分離して製剤化すれば、催奇形性は避けられた。
- 4 サリドマイド訴訟は、製薬企業だけでなく、国も被告として提訴された。

問18

スモンおよびスモン訴訟に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。なお、記述中の年月には誤りはないものとする。

- a スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- b キノホルム製剤は、米国では1960年にアメーバ赤痢に使用が制限されたことから、我が国でも直ちに販売が停止された。
- c スモン訴訟等を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- d スモン訴訟は、鎮痛剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問19

HIV訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

HIV訴訟とは、(a)患者が、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)が混入した原料(b)から製造された(c)製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	血友病	血小板	血液凝固因子
2	血友病	血漿 ^{しょう}	フィブリノゲン
3	血友病	血漿 ^{しょう}	血液凝固因子
4	白血病	血小板	フィブリノゲン
5	白血病	血漿 ^{しょう}	血液凝固因子

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)およびCJD訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。なお、記述中の年月には誤りはないものとする。

- a CJD訴訟は、国、輸入販売業者および製造業者を被告として、1996年11月に大津地裁、1997年9月に東京地裁で提訴された。
- b CJDは、ウイルスの一種であるプリオンが原因である。
- c CJDは、プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- d CJD訴訟の和解を契機として、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問21

かぜおよびかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる様々な症状の総称である。
- b かぜ薬（総合感冒薬）は、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称である。
- c かぜであれば常にかぜ薬（総合感冒薬）を選択することが最適である。
- d かぜ薬（総合感冒薬）には、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除く作用もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問22

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛作用を期待して、イソプロピルアンチピリンが配合される場合がある。
- b くしゃみや鼻汁を抑える作用を期待して、フマル酸クレマスチンが配合される場合がある。
- c 気管・気管支を広げる作用を期待して、リン酸コデインが配合される場合がある。
- d 鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として、塩酸クロペラスチンが配合される場合がある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問23

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸プロムヘキシンは、鶏卵の卵白から抽出した蛋白質であるため、摂取すると副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- 2 血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人がセミアルカリプロティナーゼを摂取すると、出血傾向を悪化させるおそれがある。
- 3 血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等）がトラネキサム酸を摂取すると、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられる。
- 4 グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。

問24

かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 葛根湯は、かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされる。
- b 麻黄湯は、かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合に適すとされる。
- c 小柴胡湯は、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- d 小青竜湯は、くしゃみや鼻汁・鼻閉（鼻づまり）等の鼻炎症状、気管支炎、気管支喘息等の呼吸器症状に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問25

かぜおよびかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a かぜに対する民間療法として酒類（アルコール）の摂取がなされており、かぜ薬の服用期間中も、酒類の摂取を推奨すべきである。
- b 一定期間または一定回数使用して症状の改善がみられない場合、登録販売者は、購入者等に対して、かぜ薬の使用を漫然と継続せずに医療機関を受診するよう促すべきである。
- c 小児のかぜでは急性中耳炎を併発しやすいため、耳の奥の痛みや発熱が激しい場合や長引くような場合には、医療機関に連れて行くことが望ましい。
- d かぜ薬を使用した後、症状が悪化してきた場合であっても、かぜ薬自体の副作用による症状である可能性はない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問26

アスピリンに関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ライ症候群の発生との関連性が示唆されている。
- b まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。
- c 血液を凝固しやすくさせる作用がある。
- d 他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起こりにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

II 主な医薬品とその作用

問27

解熱鎮痛薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害を低減させることを目的として、酸化マグネシウムが配合されている場合がある。
- b 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で、ブロムワレリル尿素が配合されている場合がある。
- c 鎮静成分の作用による眠気を解消することを目的として、硝酸チアミンが配合されている場合がある。
- d 発熱等によって消耗されやすいビタミンの補給を目的として、リボフラビン等が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問28

カフェインに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

カフェインは、脳に軽い (a) 状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を一時的に抑える効果が期待される。また、胃液の分泌を (b) させる作用や心筋を (c) させる作用もあるため、胃潰瘍や心臓病の診断を受けた人は服用を避ける必要がある。

	a	b	c
1	興奮	亢進	興奮
2	興奮	亢進	抑制
3	鎮静	抑制	興奮
4	鎮静	亢進	抑制
5	興奮	抑制	抑制

II 主な医薬品とその作用

問29

鎮痛薬(乗物酔い防止薬)の配合成分とその分類について、正しいものの組合せはどれか。

- | [配合成分] | [分類] |
|---------------|---------------|
| a テオクラ酸プロメタジン | 局所麻酔成分 |
| b 臭化水素酸スコポラミン | 抗コリン成分 |
| c ジメンヒドリナート | 抗ヒスタミン成分 |
| d 塩酸ジフェニドール | 中枢神経系を興奮させる成分 |

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問30

リン酸コデインに関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 主にトローチ剤・ドロップ剤に配合される非麻薬性鎮咳成分である。
- b 中枢神経系に作用して咳を抑える。
- c 胃腸の運動を亢進させるため、副作用として下痢が現れることがある。
- d 吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

II 主な医薬品とその作用

問31

鎮咳去痰薬に配合された塩酸メチルエフェドリンに期待される作用として、正しいものはどれか。

- 1 延髄の咳嗽中枢に作用して、咳を抑える。
- 2 気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- 3 交感神経系を刺激して、気管支を拡張させる。
- 4 痰の中の粘性蛋白質に作用して、その粘りけを減少させる。

問32

口腔咽喉薬および含嗽薬の配合成分とその目的とする作用について、正しいものの組合せはどれか。

【配合成分】

【作用】

- | | | |
|---|----------------|----------------------------------|
| a | アズレンスルホン酸ナトリウム | 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す。 |
| b | 塩化デカリニウム | 喉の粘膜を刺激から保護する。 |
| c | グリセリン | 口腔内や喉に付着した細菌等の微生物の増殖を抑える。 |
| d | マレイン酸クロルフェニラミン | 咽頭の粘膜に付着したアレルギーによる喉の不快感等の症状を鎮める。 |

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問33

胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品には、複数の成分を組み合わせることにより、様々な胃腸の症状に幅広く対応できるようにした製品はない。
- b 消化薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- c 健胃薬は、弱った胃の働きを高めることを目的とする医薬品である。
- d 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問34

胃の薬の配合成分とその目的とする作用について、正しいものの組合せはどれか。

- | | [配合成分] | [作用] |
|---|--------------------------|----------|
| a | 塩酸ピレンゼピン | 胃粘膜保護・修復 |
| b | ジメチルポリシロキサン
(別名ジメチコン) | 消泡 |
| c | プロザイム | 抗炎症 |
| d | ロートエキス | 胃液分泌抑制 |

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問35

ヒマシ油に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

ヒマシ油は、ヒマシ（トウダイグサ科のトウゴマの種子）を圧搾して得られた油を用いた生薬で、小腸で（ a ）の働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。

主に誤食・誤飲等による中毒の場合など、腸管内の物質をすみやかに体外に排除させなければならない場合に用いられるが、防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合のような（ b ）の物質による中毒には使用を避ける必要がある。

	a	b
1	リパーゼ	水溶性
2	ジアスターゼ	水溶性
3	ジアスターゼ	脂溶性
4	ペプシン	脂溶性
5	リパーゼ	脂溶性

II 主な医薬品とその作用

問36

止瀉薬に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 腸粘膜の蛋白質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめること（収斂）により、腸粘膜を保護し、炎症を鎮めることを目的として、次没食子酸ビスマスが配合されている場合がある。
- b 塩酸ロペラミドが配合された止瀉薬は、食べ過ぎ・飲み過ぎによる下痢、寝冷えによる下痢については適用対象でない。
- c 収斂成分を主体とする止瀉薬は、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- d クレオソートは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問37

胃腸薬の成分に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 臭化ブチルスコポラミンは、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされる。
- b クレオソートのうち、医薬品として使用されるのは石炭を原料とする石炭クレオソートである。
- c 局所麻酔成分は、痛みを感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがあり、長期間に渡って漫然と使用することは避けることとされている。
- d センノシドは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問38

駆虫薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示す。
- 2 カイニン酸は、回虫に痙攣^{けいれん}を起こさせる作用を示す。
- 3 リン酸ピペラジンは、蟻^{ぎょう}虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、水に溶けにくいいため消化管からの吸収は少ないとされている。

問39

循環器用薬の成分に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a ヘプロニカートは、代謝されてニコチン酸が遊離し、その働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- b コウカは、キク科の植物キクの管状花を圧搾^{さく}して板状としたもので、末梢の血行を促して鬱血^{うっけつ}を除く作用があるとされる。
- c ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- d ユビデカレノン^{ユビデカレノン}は、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンCとともに働く。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問40

高コレステロール改善薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあり、これは使用の中止を要する副作用である。
- b 大豆油不^{けん}飽和脂肪酸は、脂溶性物質であるため、悪^{おしん}心（吐き気）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- c ビタミンEは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺^{しび}れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d 高コレステロール改善薬を正しく服用すれば、食事療法や運動療法は必要ない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問41

貧血用薬（鉄製剤）に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 服用すると便が黒くなることがあるが、これは直ちに使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
- b 骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされており、消化器系への副作用もないため、食前に服用される。
- d 貧血の症状がみられる以前から予防的に使用することが望ましい。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問42

痔および痔の薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたもので、一般に「いぼ痔」と呼ばれる。
- 2 注入軟膏では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- 3 痔の薬は、坐剤や注入軟膏のような外用薬のみで、内服薬はない。
- 4 痔に伴う痒みを和らげることを目的として、抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。

問43

泌尿器用薬に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a キササゲは、ノウゼンカズラ科のキササゲまたはトウキササゲの果実であり、尿量増加（利尿）作用を期待して配合されている場合がある。
- b 猪苓湯は、尿量が減少し、尿が出にくく、排尿痛あるいは残尿感がある人に適すとされる。
- c ウワウルシは、ツツジ科のクマコケモモの葉であり、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
- d 日本薬局方収載のソウハクヒは、煎薬として尿量減少に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問44

婦人用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和することを期待して用いられる。
- b エチニルエストラジオールは、妊娠中の摂取により胎児の先天性異常の発生の恐れがあり、妊婦は使用を避ける必要がある。
- c シャクヤクは、鎮痛・鎮^{けい}痙の作用を期待して配合されている場合がある。
- d サフランは、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問45

アレルギー用薬に配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ジフェンヒドラミンを含む成分については、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じる恐れがあるため、授乳婦が使用する場合には授乳を避ける必要がある。
- 2 フマル酸クレマスチンは、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗セロトニン作用も示すため、その作用による排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- 3 トラネキサム酸は、体内での炎症物質の産生を抑えることにより鼻粘膜の炎症を和らげる。
- 4 塩酸プソイドエフェドリンは、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。

II 主な医薬品とその作用

問46

アレルギー用薬に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a アレルギー用薬は、蕁麻疹^{じん しん}や湿疹^{しん}、かぶれおよびそれらに伴う皮膚^{かゆ}の痒みまたは鼻炎に用いられる。
- b アレルギー症状が現れる前から予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することが適当であり、医師の診断や指導は不要である。
- c 一般用医薬品では、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹^{しん かゆ}、痒み等の症状に用いることを目的とするものはない。
- d 内服薬のアレルギー用薬は、同じ成分を含む鼻炎用点鼻薬と併用しても相互に影響し合わない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問47

アレルギー用薬に配合される成分とその特徴の組合せについて、誤っているものはどれか。

[成分]	[特徴]
1 マレイン酸クロルフェニラミン・・・	抗ヒスタミン作用があり、副作用として眠気がある。
2 塩化リゾチーム	皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげる。
3 メキタジン	まれに重篤な副作用としてショック(アナフィラキシー)を生じることがある。
4 塩酸メチルエフェドリン.....	血管拡張作用により、痒み ^{かゆ} を鎮める。

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問48

鼻に用いる薬に関する記述について、正しいものの組合せはどれか。

- a 点鼻薬は局所に適用されるものであり、全身的な影響を生じることはない。
- b 塩酸ナファゾリンが配合された点鼻薬を過度に使用すると、かえって鼻づまり（鼻閉）がひどくなることがある。
- c ウイルスによる二次感染防止を目的とした殺菌消毒成分として、塩化ベンザルコニウムが配合されている点鼻薬がある。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、花粉等の鼻アレルギーの症状を緩和する働きがあり、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問49

点眼薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 点眼薬は、点眼後にまぶたを閉じ、目尻を軽く押さえると薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- 2 点眼薬は、結膜囊^{のう}に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- 3 コンタクトレンズを使用したままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行わないことが望ましい。
- 4 点眼薬は、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜や喉から吸収されて副作用を起こしやすくなる。

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問50

外皮用薬に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 外皮用薬は、有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- b 貼付剤は、患部に汗や汚れが付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が低下することがある。
- c 噴霧剤は、効果を高めるため、患部の至近距離から噴霧するのが望ましい。
- d 副作用として、適用部位に発疹・発赤・^{かゆ}痒み等が現れることがあるが、引続き使用することで改善するため専門家への相談は必要ない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問51

マーキュロクロムに関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 連鎖球菌や黄色ブドウ球菌に効果があるが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。
- b 有機水銀の一種であり、皮膚浸透性が高いため、通常の使用において水銀中毒を起こす恐れがある。
- c 過酸化水素の分解により、活性酸素が発生し、殺菌消毒作用を示す。
- d ヨードチンキと混合されると殺菌作用が低下するため、同時に使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問52

外皮用薬として用いられる抗炎症成分のうち、ステロイド性抗炎症成分はどれか。

- 1 インドメタシン
- 2 ウフェナマート
- 3 デキサメタゾン
- 4 フェルビナク
- 5 サリチル酸メチル

問53

外皮用薬として用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ケトプロフェンは、まれに重篤な副作用として光線過敏症を発症することがある。
- b 胎児への影響を考慮して、妊婦はピロキシカムを配合している外皮用薬の使用を避けることが望ましい。
- c 毛髪用薬に配合されている塩化カルプロニウムは、女性ホルモンとしての働きにより、脱毛抑制効果がある。
- d レゾルシンは、角質層を軟化させる作用があり、にきび用薬やみずむし・たむし用薬に配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

II 主な医薬品とその作用

問54

口内炎用薬に配合される成分とその目的の組合せについて、誤っているものはどれか。

[成分]	[目的]
1 塩酸クロルヘキシジン・・・・・・・・	殺菌消毒
2 グリチルリチン酸二カリウム・・・・	抗炎症
3 ポピドンヨード・・・・・・・・	殺菌消毒
4 アクリノール・・・・・・・・	口腔粘膜の組織修復

問55

禁煙補助剤（咀嚼剤^{そしゃく}）であるニコチン含有製剤の相互作用に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が（ a ）するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

ニコチンは（ b ）神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬^{がい たん}、鼻炎用薬^じ、痔疾用薬等）との併用により、その作用を（ c ）させるおそれがある。

	a	b	c
1	低下	副交感	増強
2	低下	交感	減退
3	低下	交感	増強
4	増加	副交感	減退
5	増加	交感	増強

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問56

ビタミン主薬製剤（いわゆるビタミン剤）の種類とその主薬成分として配合されている成分名の組合せについて、誤っているものはどれか。

【種類】	【成分名】
1 ビタミンA主薬製剤・・・・・・・・	酢酸レチノール
2 ビタミンB1主薬製剤・・・・・・・・	塩酸チアミン
3 ビタミンB2主薬製剤・・・・・・・・	リン酸リボフラビンナトリウム
4 ビタミンD主薬製剤・・・・・・・・	塩酸ピリドキシン

問57

殺虫剤に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ゴキブリを燻蒸^{くん}処理する場合には、3週間位後にもう一度燻蒸^{くん}処理を行い、^ふ孵化した幼虫を駆除する必要がある。
- 2 同じ殺虫成分を長期間連用することが望ましい。
- 3 フェノトリンは、シラミの駆除のため人体に直接適用される。
- 4 ジフルベンズロンは、昆虫が脱皮する時の新しい外殻の形成を阻害して、幼虫の正常な脱皮をできなくする。

問58

妊娠検査薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 なるべく採尿後速やかに検査がなされることが望ましい。
- 2 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- 3 検査薬は低温において正しい結果が得られるため、冷蔵庫内での保管が望ましい。
- 4 早朝尿（起床直後の尿）が検査に向いているが、尿が濃すぎるとかえって正確な結果が得られないこともある。

II 主な医薬品とその作用

問59

漢方処方製剤と適応症の組合せについて、誤っているものはどれか。

	[漢方処方製剤]	[適応症]
1	<small>おうれんげどくとう</small> 黄連解毒湯	体の虚弱な人における鼻出血、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔い、めまい
2	<small>ぼういおうぎとう</small> 防己黄耆湯	色白で疲れやすく、汗をかきやすい傾向のある人における、肥満症（水ぶとり）、むくみ
3	<small>ぼうふうつうしょうさん</small> 防風通聖散	腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちな人における、高血圧の随伴症状（動悸、肩こり、のぼせ）、肥満症、むくみ、便秘
4	<small>だいさいこうとう</small> 大柴胡湯	がっしりとした体格で比較的体力があり、便秘がちな人における、胃炎、常習便秘、高血圧に伴う肩こり、頭痛

問60

殺菌消毒成分とその特徴の組合せについて、誤っているものはどれか。

	[殺菌消毒成分]	[特徴]
1	クレゾール <small>けん</small> 石鹼液	ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
2	エタノール	粘膜刺激性はない。
3	塩化ベンザルコニウム	石鹼 <small>けん</small> との混合によって殺菌消毒効果が低下する。
4	次亜塩素酸ナトリウム	金属腐食性がある。

